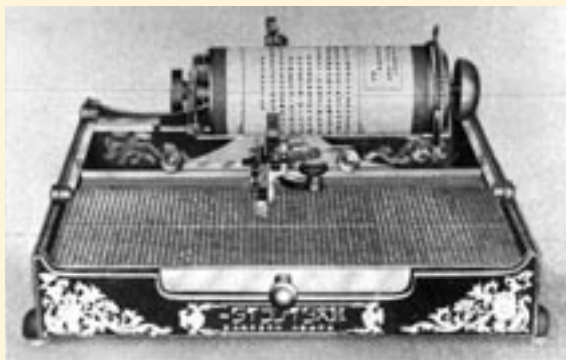


杉本京太の代表的発明(邦文タイプライター)

欧米諸国で普及していたタイプライターは、我が国においても強く待ち望まれていましたが、漢字等複雑な文字を使用する邦文(和文)では、活字数の少ない欧米型のタイプライターの機構を流用することはできませんでした。

そこで杉本京太は、字数の多い漢字等に適應するよう、公式文書に使われた文字の使用頻度など漢字の性質を検討し、そこで選ばれた2,400文字を平面上の活字庫に分類整理された独特の配列により並べ、前後左右に動く一本のタイプバーによって任意の活字をつまみ上げ、円筒形の紙保持具に向かって打字するという斬新な機構をした邦文タイプライターを大正4年に発明しました。

この発明は、ワープロが普及するまでの間、多くの会社や官公庁の書類作成事務の能率化に多大な貢献をしました。



販売を開始した最初の邦文タイプライターと最初のカタログ